

平成 26 年度春季講演会

深沢桃木研究室 修士 1 年
足立純也

5 月 26 日、27 日、宮城県仙台市にて日本船舶海洋工学会春季講演会が開催されました。私にとって初めての学会発表の機会を頂きましたので、その様子について簡単に報告させていただきます。

市の中心部を通る青葉通りには、大きなケヤキの木が通りに沿って植えられており、大都市にもかかわらず緑豊かな街並みが印象的でした。仙台駅からその青葉通りをしばらく歩くと、独眼竜で知られる伊達政宗が築き上げた仙台城のふもとへと到着し、その右手にある仙台国際センターにて春季講演会が開催されました。



青葉通り

仙台国際センター

1 日目の午前、それぞれの部屋にわかれてセッションごとの発表が行われ、午後からは大部屋に集まり日本船舶海洋工学会賞の表彰式とその方による講演会が行われました。それに引き続き国際セッションが行われ、海外の学会や船級協会、大学から講師の方が来られてすべて英語での発表がありました。そして 1 日目の最後の講演として、東日本大震災からの復興 3 年の対応を振り返るというタイトルで復興庁宮城復興局長の梶原様のお話を聞きました。あの大震災から 3 年が経過した今でも仮設住宅で過ごされる方は多く、今年と来年がその方たちが移り住まれる復興住宅の完成がようやくピークになると聞き、未曾有の大震災の影響が多くの人に深く残っていることを改めて感じさせられる内容でした。特に東日本の輸出入の要である多くの港が津波によって壊滅されてしまったことについて、その港の機能の早期再建が大きな課題となったことについて、一刻も早く港としての機能を復活させるために、主要な港から優先順位を設けることで【人との】を集中させて修復し、完成すれば次の港に移るといった方法を用いることで、比較的早い段階で港の復旧させることができたとのことでした。このようにあまり耳にしない海洋に関わる

復興のお話が聞くことができ、非常に興味深い内容でした。そして1日目の最後には懇親会が開かれ、瞬く間に料理はなくなってしまいました。その分交流できる時間も増え、横浜国立大学や、東京大学の学生と仲良くなることができました。

2日目は朝からずっとそれぞれの部屋にわかれてセッションごとの発表でしたが、私の発表が午後に控えており、そのことで頭がいっぱいのためあまり集中して聞くことができませんでした。いくつかを紹介すると、水槽での実験データを集中管理するシステムの提案や、溶接作業を随時モニタリングし画像解析を行うことでヒューマンエラーを減らす取り組み、地面効果翼機(WIG)のシミュレーションなど興味深い発表ばかりでした。そしていよいよ私の発表の時となり、最後の方のセッションにも関わらず意外にもたくさんの方が聞きに来られたので少し緊張していましたが、前に立てば不思議とあまり緊張は感じませんでした。所々詰まってしまいましたが、なんとか予定通りの内容を発表することができ、質疑応答ではお二方より貴重な意見を頂きました。振り返るとあっという間に終わっていた気がします。しばらくすると学会の全日程が終了し、会場からの帰り道は肩の力もぬけ、すがすがしい気持ちになりました。そして自分へのご褒美として立ち寄ったお店で食べた牛タンの味は最高においしく感じたのを覚えています。

この2日間はあっという間でしたが、非常に中身の濃い充実した時間を送ることができました。今回、このように学会で発表する機会を与えていただいたことに感謝します。この経験を生かし、これからの研究生生活を日々頑張りたいと思います。



講演会の様子

絶品牛タン定食